

北佐枝子さんが平成30年度文部科学大臣表彰若手科学者賞受賞

拠点メンバーの北佐枝子さんが、「平成30年度文部科学大臣表彰若手科学者賞」を受賞しました（平成29年度まで広島大学，平成30年度からは建築研究所所属）。

文部科学省では、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者を「科学技術分野の文部科学大臣表彰」として顕彰してきており、この度、北さんはその中の「若手科学者賞」を受賞しました。この「若手科学者賞」は、「萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満の若手研究者が対象」で、毎年推薦機関から推薦を受けた候補者300名を対象に、最終的に99名のみが受賞に至ります。科学全分野が対象であり、非常に狭き門の賞といえます。今回の北さんの受賞に対する業績名は、「スラブ内地震の地震発生機構の研究」です。

北さんは、これまでの研究では不十分だったスラブ内地震の分類と抽出を丹念に行い、その解析結果に脱水脆性化仮説という岩石学的知見を加えて発展させるという学際的な研究に取り組みました。その結果、スラブ内の応力中立面の推定に成功し、スラブ内の大地震の破壊域が中立面を超えて広がらないことを見出しました。この成果は、プレート境界型地震などと比べて理解の遅れているスラブ内地震の発生機構の研究を進展させ、将来起こりうるスラブ内大地震の規模上限の予測などに役立つことが期待されます。